

## 巻頭言：

# 複数の学部をもつ大学に進化する—健康栄養学部の新設

学 長 二 宮 皓

(第7代学長・平成25年4月～)

『比治山大学現代文化学部紀要』の創刊号（1994年）の巻頭言で当時の豊嶋睦学長が、「比治山大学現代文化学部」の設立について、「現代社会に視点を合わせて、人間の文化を見ようとするものであるが、そこから、『現在を精一杯生きるよう精進する』という（注・比治山学園の）建学の精神に則った学部」であり、現代文化学部の教育理念が、「過去の文化遺産を暖かい眼で捉えながら、また、未来の文化の進展のために寄与していけるよう、現代社会の文化の特性と諸現象を究明し、それに適切に対応できる能力を育成するよう『現在を精一杯精進する』ことにあると誇らしそうに述べている。

それから20年。平成26（2014）年4月、建学の精神を踏まえて、新たな学部「健康栄養学部管理栄養学科」を開設することができた。第一期生57名の入学を許可した。比治山大学はこれをもって単科大学から複数の学部をもつ大学へと発展することになる。これを機に紀要のタイトルも『比治山大学紀要』と変わることとなった。新訂版紀要という意味では再び「創刊号」を刊行するような興奮を抱いている。ますます質の高い紀要になることを願っている。

さて健康栄養学部（管理栄養学科、募集人員70名）の設置は、理事会の意向に基づいて急きよその設置が決められたものであり、短期大学部の総合生活デザイン学科栄養士養成コースの定員増を決定し、さらに新たな管理栄養学科をスタートさせるという極めて大胆で挑戦的な大学等改革であったといえる。同窓会「楫の樹会」の方々の悲願でもあったと聞いている。学校法人比治山学園が、まさに現代社会の動静を真摯に受けとめ、高齢社会を迎える中で真の健康で豊かな長寿社会の実現に貢献する人材育成を行い、地域に貢献する大学へと脱皮することを決心したといえる。平成25（2013）年4月に学長として赴任し、その年の10月末の設置認可決定までは、新学部設置に謀殺される毎日であったと言っても過言ではない。設置認可が決定した通知を受け取った時は心から喜びを感じるとともにある種の安堵感に浸ったことを思い出している。新学部設立準備委員会委員長の吉山裕樹副学長、小田光子教授（現健康栄養学部初代学部長）など多くの先生方と平松立美事務局長をはじめとする職員の方々の熱意と努力に敬意を表するものである。

平成26（2014）年6月の新学部開設記念式典では神奈川県立保健福祉大学の中村丁次学長に記念講演を行っていただき、新学部への期待と新入生57名への激励を頂戴した。特に「健康な食事」という新たなテーマがあり、栄養学も刻々進歩発展しているという話を伺ったことが強く印象に残った。その意味でも新たな地平を切り開くべく研究教育に精進してもらいたいものである。

新訂版『比治山大学紀要』が栄養学等の新たな分野の学術論文を掲載することで、比治山大学における研究の広がりや深みを世に問うクオリティー研究誌になることを願っている。